

# ヒューマン 上田

ヒューマン[Human]とは…

「人間の」とか「人間的」と訳され、一人ひとりの人権を大切に  
する明るい上田市であることを願い、名付けられました。



## つなごう 思いやり 平和のリレー

長野県縦断駅伝競走大会(2015年)でのタスキ渡しの情景です。走り終える選手と受け取る選手との間に阿吽の呼吸が感じられる。繋いでいる。美しいですね。

昨年(2015年)は、戦後70年ということで、今まで胸の中に閉まっていた戦争体験(戦友の死を目の前にして何も出来なかったこと等)を涙ながらに語ったり、「ただ敵の航空母艦に向かって吸い付く磁石の中の鉄の一分子に過ぎぬです」との特攻隊員の所感を目にしたり、連日のように見聞きました。

敗戦から4年後(1949年)日本で初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士。その前年(1948年)にアメリカのプリンストン高等研究所に招かれました。研究室に着くとすぐ一人の老人が訪ねてきました。アインシュタインです。湯川博士の両手を握って泣き出しました。そして「原爆で何の罪もない人々を大勢死なせてしまいました。許してください。」と繰り返しました。その姿に衝撃を受けた湯川博士は、「学問は社会と無縁ではいられない」と心に深く刻み、そして、世界の平和と核兵器の廃絶を訴え続けるようになりました。

1955年、「原子力の脅威から人類を守ることは、他の何ものよりも優先されなければならない」とイギリスの哲学者ラッセルとアインシュタインが提唱した「すべての核兵器を廃絶することを訴えた宣言」に、11人が署名した中に湯川博士も名を連ねました。

それから60年を経た今、世界はどうなっているのでしょうか。湯川博士の願いは繋がっているのでしょうか。

世界大戦が終わって70年も経つのに世界各地でテロや民族紛争が勃発し、殺し合いが始まった。どうしてだろう。こういう争いは武器がなければ成り立ちません。平和は困るといふ商人たちがその背後にいます。だから武器がいくらでも争う人たちの手に渡ります。他人の命を奪う戦いはもうごめん

上田市人権啓発推進委員会 会長 出澤 宏

にしてほしいものです。作家の加賀乙彦さんは、「原発を輸出するよりも、日本文学を輸出してほしい、文学を読んで心を広くする方がよほど人間的です」と言います。正しいと考えることが違うからといって戦争をしなくちゃならないということはありません。お互いに違いを認め合えばいい。他人を馬鹿にしたり蔑んだりしないで、まず会って意見を交換し、一緒に生きて行くことができないものでしょうか。

昨年10月に作家で僧侶の家田莊子さんの講演をお聞きし、次のことが心に残っています。

厳しい環境で育ち、いじめられていた小学生時代、6年生の時にいじめは今が最低なんだと逆転の発想をされました。やがて自ら極道やエイズの人たちの中に入り、女性を主に取材しノンフィクション作品を発表、2007年に真言宗高野山大学で伝法灌頂(注1)を受けて僧侶となりました。しかし私にはお寺がない、そうだ“歩くお寺になろう”と高野山の布教師になりました。11年前から四国八十八か所のつなぎ遍路をされています。講演日前日も歩いてこられました。遍路では車遍路や歩き遍路に関係なく、すれ違う人に「あいさつ」をします。何かを通じます。あいさつは気持ちいいですね。

上田市ではどうでしょうか。私は数年前から上田城跡公園でお客さんに声を掛けるようにしています。あいさつし、「遠くからお見えですか?車で?新幹線で?」などと尋ねます。各地から訪ねてきていて、遠くは香港とか、台湾からのお客さんもいて驚きです。上田の印象を聞くこともあります。中には「昔は闘う城で構えが立派でしたが、今は城内へ誰でも入れてくれますね。」とユーモアで話してくれる方もいます。思わず笑顔で「では良い旅を」……と。

(注1) 伝法灌頂でんぽうかんじょう: 人の師となる位につこうとする者に対し、大日如来の法(最高位)を授ける儀式

## 特集 命を守り抜いた人たち 戦争と人権

昨年の8月15日、日本は大戦の終結から70年目を迎えました。今年の特集記事では、今だからこそ伝えておきたいスライド・ドラマ「肢体不自由児『いざ信濃路へ』奇跡の東京脱出」を紹介します。

※文中の言葉は一部当時のままの表記を使っているものがあります。

### 『光明国民学校』～太平洋戦争のなか、学童疎開を拒まれた障がい児たち～

1932年（昭和7年）、東京に肢体不自由児のための学校、光明各種学校（のちの光明国民学校）が設立されました。それは児童に治療、訓練、教科の授業を行う日本で唯一の学校でした。やがて太平洋戦争が始まりました。年ごとに日本の戦局は厳しさを増し、ついに米軍による東京空襲が開始されました。そのため東京の小学生は、全国各地に学童疎開をすることになったのです。しかし光明の児童は「将来の戦力にならない」という理由で疎開を拒まれました。そこで松本保平校長は校庭に防空壕を掘り、宿泊施設まで作りましたが、視察に来た市民や教育者たちは「役にも立たない子どもに、こんな施設はもったいない」「お前らは戦地の兵隊さんの苦勞を知っているのか」と言い放つ始末でした。



権利を奪われていた肢体不自由児

### 命を守り抜こう！～その決意と行動に心を動かされた人々～

B29による空襲は激化し、昭和20年3月10日には死者10万人を出した「東京大空襲」が起こりました。この悲劇を目の当たりにした松本校長と職員は「戦争は殺し合いなんだ。弱者は捨てられるのだ。光明の児童を助ける者は私たちしかない」と自力で疎開先を探す決意をしたのです。

松本校長は疎開受入先が多い長野県庁に一人出かけ、上山田村の旅館を紹介されました。早速、村役場で若林正春村長に事情を話し協力を求めましたが、「面会お断り」の日々が続きました。しかし諦めず何度も村役場に足を運び、ようやく面談が実現しました。松本校長は「疎開を受入れて頂ければ、必ずこの子たちを立派に働けるようにして親御様にお返しします。それがお国のためになるのです。これが私のアメリカとの戦争です」と泣きながら若林村長にお願いしました。でも村長は首を縦に振ってくれません。それでも松本校長は待ちました。諦めかけた夕刻、ついに若林村長の心が動いたのです。経営するホテルを疎開先にしてくれたのです。

東京に戻った松本校長には休む間もなく次の仕事がありました。それは児童の信州への大移動です。戦時下それを簡単に引受けてくれる業者などありません。松本校長は人員輸送願いに東京鉄道局新橋運輸部を訪ねましたが、戦時を理由に断られました。でも松本校長は諦めず何度も窓口へ足を運び、担当主任の心を動かし承諾の言葉を引き出したのです。

次は荷物の輸送です。無理を承知で下北沢旅団本部川越輸送部隊に直接出向き、隊長と面談。驚いたことに事情を聴いた隊長は、すぐに荷作りと輸送のために輸送兵一個小隊を提供してくれました。

問題はまだありました。戸倉駅からホテルまでの道を疲れた児童が歩くのは無理です。そこで光明の寺野先生がバス会社営業所にバスの手配を頼みこみました。案の定、戦時を理由に断られましたが、寺野先生の必死の願いが所長を動かし、児童のためにバス2台が用意されました。



東京大空襲を校庭の防空壕でしのぐ

そして5月15日10:00、上野駅から光明の児童と関係者、大量の荷物を乗せた列車が戸倉駅に向け出発したのです。…その直後の5月25日、米軍は「東京とどめの大空襲」を実行、光明の校舎は焼け落ちました。東京脱出がもし10日遅れたならば…。

…8月15日、日本は負けて終戦となりました。空襲で学校を失った光明の児童は、戦後4年間、若林村長の援助によりホテルでの生活を続けることができました。先生、看護婦さん、保母さん、そして地域の大人や子ども達のやさしさに囲まれて、信濃路での美しい思い出が作られたのです。



ありがとう信濃路のみなさん

### 伝えなければならないこと ～白川義男さんを動かしたもの～

光明国民学校を巡るこの一連の出来事に心を動かされた白川義男さん（坂城町）は、事実をもとにシナリオを作成。同時にシナリオに沿って150枚の水彩画を描きスライドにし、元有線放送アナウンサー大久保初さん（上田市秋和）からナレーションの協力を得て、スライド・ドラマ「肢体不自由児『いざ信濃路へ』奇跡の東京脱出」に仕上げました。昨秋から上田市で上映会を開き、多くの人に光明国民学校のこの事実を伝える活動をしています。



白川 義男さん

白川さんは作品制作への思いを次のように語ってくれました。

「戦争一色の時代、『将来の戦力にならない』と社会から無視、疎外された肢体不自由児を救い出そうと、『人間は等しく教育されるべきである』と社会に訴えた人々がいたことを伝えたかった。作品制作のなかで、戦時下でも純粋に命を大切にする心があったことを感じた。その心が奇跡とも言える支援を生み出し、願いが叶ったものと思います」

### 上映会参加者の思い

上映会に参加された多くの方から感想が寄せられました。以下、一部ですが紹介します。

○白川さんの取材、スライドの作成等大変な労力があつたと思います。このように世の中の人に伝えてもらえる事はとてもありがたい事です。企業でも障がい者の雇用率2%ということで取り組んでいますが、やはり根底には人を助けたいという気持ちがあると思っています。そして理解と共生、社会に理解を深めていく機会になればと思います。ぜひ多くの人に見ていただきたいスライドです。

○弱い人達を助けるのは、余裕があるとかないとかでなく、気持ちの強さだと改めて知らされました。豊かになっている現代、自分の無力さを痛感しました。力まず、自分の出来る事を何かやっていきたいと思っています。

○親という立場で今回の作品を見ることができたことは、個人的にとってもよかった。もし自分と子どもが同じ状況であればどうだったのだろうか？何ができたか？出来れば多くの親にこの作品を見てほしい。

○自分だけを守るのに必死な自分が情けない。こんな平和な時代なのに…

上映会に参加いただいた皆さんありがとうございました。



ラジカセと手動のスライドで上映する白川さん

いのち・愛、そして絆を大切に作るまちづくり

## 上田市人権啓発推進委員会 平成27年度の歩み

上田市人権啓発推進委員会は、各団体の代表や自主的に入会した市民140余名の会員で構成されています。当委員会ではお互いの人権を尊重し、あらゆる差別をなくそうと学習や市民への啓発活動を行っています。ここでは、この1年間の主な活動を紹介します。

## 委員視察研修会 平成27年7月16日

下伊那郡阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」を見学しました。まず案内ボランティアの方から「満蒙開拓団が渡って行った当時の状況」や「満州に渡ってからの生活」「ソ連軍が侵攻してきたからの逃避行」そして「この記念館ができるまでの経緯」などの説明を受けたあと、館内の写真やパネル、体験証言資料などを見て回りました。

続いて、中国残留婦人である中島千鶴さんから体験を話して頂きました。千鶴さんは小学2年の時（昭和15年）一家で満州に渡り、昭和20年8月敗戦のあと、約1ヶ月逃避行した時のことなどを噛み締める様に切々と話してくれました。「8歳の弟の手を引っ張って歩いた。川の水を飲み畑のものを取って食べた。……もう死ぬ覚悟をした。」と語りました。

その後、一家は中国人「隋さん一家」に助けられ、3年後、隋さんと結婚、昭和49年に日本に一時帰国、昭和60年（当時52歳）には日本に永住帰国、その後も大変な生活が続いたといいます。この研修を終えて参加者は、「戦後70年の今年、ここが見学できて感慨深かった。」と話していました。



下伊那郡阿智村 満蒙開拓平和記念館

## 第10回人権を考える市民のつどい 平成27年10月1日

完成から1年が経過したサントミュージアム大ホールにて、上田市他、関係団体の主催により「いのち・愛、そして絆」をテーマに多くの市民の皆様の出席のもと開催されました。はじめに、参加者全員で隣席の方とハンドインハンド（手と手をつないで）で「世界はひとつ」の歌を歌い、和やかな雰囲気の中始まりました。

市民へのアピールでは、「上小ふれジョブ連絡協議会上田支会」代表の望月千佳子さんより、障がいがある子ども達が地域ボランティアと一緒に市内のスーパー等で、週1回、1時間の職場体験を続けている活動の紹介がありました。（写真右）

職場体験を通して、子ども達は成長し、自信を持ち、私たちに色々なことを気づかせ、考えさせてくれます。「ふれジョブ」の今後の活動を地域全体でサポートしていただきたいとお話がありました。

引き続き、作家で高野山真言宗僧侶の家田荘子さんに『一緒に生きていきましょう～私の出逢った人たち～』と題し、ご講演いただきました。

家田さんの生い立ち、母親から厳しく育てられ外でいじめられても家庭の中に逃げ場がなかった事、母親に苦しい気持ちを伝えることができなかった事、国際結婚してアメリカにいる時に取材したエイズ患者さんから教わった「慈悲の心」、そして現在も少年・少女の悩み事相談を受ける中で感じる「家庭の大切さ」などについてお話があり、最後に人と人の関係の中で「あいさつ」の重要性についてアドバイスをいただきました。

華やかなイメージの方と想像していましたが、大変な苦勞と経験があつて今日があることを学び、参加した多くの方が温かな気持ちで帰ることができたと思います。



サントミュージアム大ホール

上小ふれジョブ連絡協議会  
上田支会の皆さん

## 人権啓発担当者研修会 平成27年10月31日

「ともに生き 支えあう 地域」をテーマに、市内社会教育関係団体の人権担当者等を対象に開催されました。参加者174名で人権啓発DVD「ヒーロー」を見た後、6つの分散会に分かれて話し合いをしました。地域の一員として、「地域のつながりやコミュニケーションの大切さ」を改めて考える良い機会になりました。



上野が丘公民館

〈参加者の声〉

- ・勇気を出して声をかけ合うことが大事だと思う。
- ・困っていることを口に出すことは、惨めだったり、恥ずかしさがあったり、なかなか言えないでいた。それではいけないと改めて考えさせられた。
- ・普段気付かず見えていないだけで、身近なところに様々な人権問題があると実感させられた。

## 第67回全国人権・同和教育研究大会 平成27年11月21～22日

東日本では、東京に次ぎ30年ぶりに開催された研究大会に、全国各地から約1万人の方に県内にお越しいただきました。「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」をテーマに、全体会場の長野市ホワイトリングで基調提案等大会の意義を確認した後、各会場に分かれて、4の分科会・21の分散会を行いました。上田市では、学校教育に関係する分散会が行われ、会場に入りきらないほどの参加がありました。



上田市文化センターホール

## 第67回人権週間 街頭啓発 平成27年12月4日～10日

12月4日からの人権週間にあわせて、4日と7日の二日間、上田駅前と市内のスーパーの3ヶ所で行われました。初日の4日には早朝の冷え込む中、人権啓発の関係団体のみなさんが「ご協力をお願いします」と啓発物品を添えてチラシを手渡しました。行き交うみなさんも頷くように受け取っていました。これからも誰もが住みよい社会になることを願い、様々な啓発活動を続けていきます。



上田駅前

## 人権作品審査 平成27年12月14日～平成28年1月8日

人権尊重への理解を深めていただくために、人権に関わるポスター・作文・詩・標語を募集し、児童・生徒、一般市民の方から763点もの作品が集まりました。ご協力に感謝申し上げます。どの作品からも「つながり」を求め、共に生きていくことの大切さが伝わってきます。審査を経て応募作品の中より最優秀・優秀作品が決まりました。選出された作品は、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指し、今後の人権啓発活動で活用させていただきます。



中央公民館での審査

## うえだ人権フェスティバル 平成28年2月20日～21日

「第28回 いのち・愛・人権展」が真田中央公民館において開催されました。会場には、市の人権啓発推進委員が作成した人権に関する資料と、市内小・中・高校生や一般の方の入選作品が展示されました。

20日の午後には、最優秀作品の表彰式と作文の朗読が行われました。しっかりとしたその姿に、人権を真剣に考え、きっと明るい未来を担ってくれるだろうと頼もしく感じました。続いて、教育・食育アドバイザーの大塚貢さんから「私の家族の見えない・気付かない人権について考える」と題して講演がありました。大人にもあるいじめの根底には、食生活が大きく関与していると、事例を交えわかりやすくお話いただき、大変考えさせられました。



真田中央公民館

詩の部

見えないあなたへ

北小学校 六年 宮下 萌音

道ですれちがった人が  
スマートフォンを片手に  
画面を通じて  
知らない人とお話している  
その人もたぶん  
画面の向こう側の人が  
誰なのか分からないだろう  
私は心配になる

「ありがとう」  
って画面が光っても  
その気持ち  
本当に伝わっているかな？  
「ごめんね」  
って画面のキャラクターがおじぎしても  
その気持ち  
届いているかなあ？

「また今度ね」  
って次の約束したつもりが  
「もう会わない」  
っていう意味だと  
誤解されていないかなあ？

文字だけじゃ  
気持ちを伝えるのって難しい  
ましてや 顔も知らない  
見えないあなたに  
自分を分かってもらうなんて…

人と人のつながりは  
言葉や文字だけでなく  
目の前にいるあなたの顔の表情  
あなたの声の大きき明るさ  
あなたを感じる全てで  
つながってゆく

目の前にいるあなたに  
私の口で私の言葉  
気持ちを伝えたい  
目の前にいるあなたを  
はげましたり  
喜ばせたりしたい  
残念だけど画面の向こうの  
見えないあなたを  
私は何も  
感じる事ができない

詩の部 最優秀賞 受賞者

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 大すきなおともだち…川辺小学校 一年 芳賀 陽音 | ひみつ…………… 傍陽小学校 四年 小林 亜夢 |
| うんどう会のこと……川辺小学校 二年 手塚 快  | えがおの輪…………川辺小学校 五年 渡邊 りな |
| え顔いっぱい…………神科小学校 三年 関 美琴  | 見えないあなたへ…北小学校 六年 宮下 萌音  |

標語の部

うれしいな いっしょにあそぼっと いわれたよ

清明小学校 一年 伊藤 由杏

ふざけても やってはいけない ことがある

北小学校 二年 高橋 彩花

ちよっとまで いじめはいつも 赤信号

塩田西小学校 三年 原田 一輝

君がいる それだけなのに うれしいよ

丸子北小学校 四年 田中 みのり

一人じゃない だれかに話そう つらいこと

丸子北小学校 五年 吉池 陽代

声かけて 誰でも消せる いじめの火

塩川小学校 六年 林 麻友香

違う意見 否定の前に まず理解

第六中学校 一年 小木曾 恋

無関心 それが一番 悪いこと

第六中学校 二年 城田 真歩

言う前に 相手の気持ち 考えて

丸子北中学校 三年 堀之内 マリア イサヘル

考えよう相手の気持ち 見直そう自分の気持ち

シナノケンシ株式会社 神田 克

作文の部

生きる大切な存在

神科小学校 三年 佐藤 梨央

わたしは、うらかみひでさんと  
いう、とても感動することをしてい  
る人がいることを知りませんでした。  
わたしは、ひでさんの作り出す  
「文字アート」を見た時、「ひでさ  
さんは両手が使えないのに、自分に負  
けていないですごいな。」と一目見た  
だけで気に入りました。

「文字アート」というのは、漢字の  
一画一画の中にひらがなを書きます。  
そのひらがなで言葉ができます。  
ひでさんは「笑」という漢字の中  
に「こころのうるおい」とも一つ  
「ありがとう」という言葉を、  
「存在」という漢字には「みんなが  
えがお」という言葉を書いていました。

「存在」は、たとえ小さな「あり」  
だとしても存在しています。もちろん  
「わたし」も。存在していると思つた、  
なんだかふしぎな感じがします。  
それは、なぜかと思つて考えてみま  
した。

一人一人お母さんのおなかの中  
から生まれてきた日が、たん生日  
です。それからずっとあんなにも

たくさんお母さんやお父さんにあま  
えてきています。でも、たん生日の  
日からわたしはこの世に存在したの  
ではありません。お母さんのおなかの  
中にはじめて入った日から、もうわ  
たしはこの世に存在して笑っていた  
んです。どこのだれもそうだと思  
います。たん生日は、この世に存在  
して笑っていることに気づく日だと  
思います。

なぜか、お父さんお母さん、おば  
あちゃんおじいちゃん、近所の人、  
なにより大切な大切なお友だちに、  
めいわくや、かなしむことをしても、  
「ごめんね。」を言つとみんなみな  
笑ってくれます。

よくお母さんに言われます。  
「人生かなしんだりおこつたりして  
いると、そんしちゃうよ。口は横に  
して笑っていると、しあわせは  
きつとくるよ。」と。

なので、そんしないために、した  
いことがあります。それは、ずっと  
ずっと笑いながらたくさんのお友だち  
と楽しくくらすのがゆめです。  
みんなも口を横にして、  
くらせるといいですね。

作文の部 最優秀賞 受賞者

なかよしすごろく

城下小学校 一年 宮澤 芳果

きんじよのおばあちゃん

本原小学校 二年 金田 馨花

生きる大切な存在

神科小学校 三年 佐藤 梨央

一人一人のよさ

城下小学校 四年 宮下 結奈

人のことを考える

神科小学校 五年 宮入 丈

友達だから できること

北小学校 六年 阿藤 颯姫

人はみんな対等である

第三中学校 一年 多羅澤 陸斗

人との付き合い方

依田窪南中学校 二年 小山 優香

三年前の私へ

第三中学校 三年 清水 秋月

私の中の人権の目

丸子修学館高等学校 二年 塩崎 麻衣

平成27年度

最優秀人権啓発作品

上田市人権啓発推進委員会では、上田市教育委員会とともに、毎年多くの  
方に人権尊重への理解を深めていただくために人権啓発作品（作文・詩・  
標語・ポスター）を募集しています。

今年度も小中学生をはじめたくさんの方に、応募していただきました。  
その中から最優秀作品に選ばれた作品の一部を紹介します。



うえだ人権フェスティバルで表彰式が  
行われました。(平成28年2月20日)



作文の部

生きる大切な存在

神科小学校 三年 佐藤 梨央

わたしは、うらかみひでさんと  
いう、とても感動することをしてい  
る人がいることを知りませんでした。  
わたしは、ひでさんの作り出す  
「文字アート」を見た時、「ひでさ  
さんは両手が使えないのに、自分に負  
けていないですごいな。」と一目見た  
だけで気に入りました。

「文字アート」というのは、漢字の  
一画一画の中にひらがなを書きます。  
そのひらがなで言葉ができます。  
ひでさんは「笑」という漢字の中  
に「こころのうるおい」とも一つ  
「ありがとう」という言葉を、  
「存在」という漢字には「みんなが  
えがお」という言葉を書いていました。

「存在」は、たとえ小さな「あり」  
だとしても存在しています。もちろん  
「わたし」も。存在していると思つた、  
なんだかふしぎな感じがします。  
それは、なぜかと思つて考えてみま  
した。

一人一人お母さんのおなかの中  
から生まれてきた日が、たん生日  
です。それからずっとあんなにも



ポスターの部



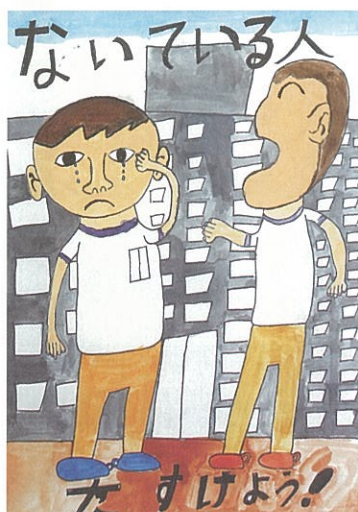
たのしいね  
城下小学校一年 青木 香澄



なかよし  
川辺小学校二年 小林 美悠



いじめの火じになる前に  
丸子中央小学校三年 大内 遥稀



ないている人 たすけよう!  
西内小学校 四年 今井 健作



笑顔の花を咲かせよう  
城下小学校五年 西村 咲月



言葉の使い方  
間違えていませんか?  
川辺小学校 六年 高原 万桜



仲間はずれは やめよう  
第五中学校 一年 田森 湖涼



きこえますか? 心のSOS  
塩田中学校 二年 志田 星華

上田市人権啓発推進委員会への  
ご意見、入会申込み(年会費500円)は事務局まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習課  
TEL.23-5197